

## 令和6年度 第9回白山市ミライ会議 【概要】

日 時 令和6年7月27日(土)14:00～15:00

場 所 市民交流センターはくさんホール 3階企画展示室

テーマ 【防災】 地域防災

出席者 10人〔出城・御手洗・千代野・旭・郷地区の地域コミュニティ組織の防災担当ほか〕



### ◆住民を巻き込み地区防災計画を作成 社会体育大会でも楽しみながら防災を学ぶ工夫

(出席者①)

郷地区では、昨年から地区防災計画制度に取り組んでいます。作るにあたって、ハザードマップのワークショップや防災訓練を実施し、今年2月に計画書を住民に配布。7月7日には地区全体で防災フェスティバルを開催しました。

白山市にも地域防災計画はありますが、地区の防災リスクを見極め、より具体的な計画を立てたほうがいいと考えました。計画を作ることが目的ではなく、計画を作る段階で、ワークショップや訓練などで住民を巻き込んでいるため、みんなの防災意識も高めることができましたと思います。こうした個々の地区防災計画を、白山市全体の地域防災計画に組み込んでもらいたいです。

(出席者②)

今年から社会体育大会で防災にちなんだプログラムを取り入れました。事前に配るプログラムに、YouTube の担架の作り方につながるQRコードを貼付して、当日、大人たちは簡易担架を作るリレーに挑戦し、子どもたちは消火器を使った的当てゲームを楽しみました。皆さん楽しみながら学ぶことができたということで、本当に良かったと思います。各地区でも、取り入れてはどうでしょうか。

(出席者③)

郷地区の住民ではありませんが、先ほど話にあった防災フェスティバルに参加しました。初めてながらしっかりと運営をされていて、朝から夕方まで、町ごとに参加時間を区切って、人の集中を避ける工夫や、担架リレーの競技では安全への配慮もされていました。競い合うことで技術も高めることもでき、現場で話を聞いて感心しました。ハザードマップも作成していて、素晴らしいと思います。これからも勉強させていただきます。

(市長)

住民の皆さんに、地区防災計画を配ったのですか。

(出席者②)

配りましたが、どこにいったか分からないという声も結構聞きます。能登半島地震の際に、私たちの地区は海拔13mで津波の影響を受ける心配は少ないにもかかわらず、山の方に逃げたという人もいました。配った計画を見ていれば、そんな必要はなかったはずです。

#### ◆地震時のパニック状態に危機感 正しい知識で災害に備えてほしい

(出席者④)

千代野地区でも、地震で津波警報が発令され、多くの人たちが避難しました。車で山に向かう人や他の町に避難したりした人もいたほか、緊急避難所ではないにもかかわらず小学校の屋上に行こうとした人もいました。住民の皆さんには、正しい知識を持って災害に備えてほしいとの思いから、現在、地区防災計画を作ろうとしています。計画策定後には、現在1つしかない緊急避難場所の数を増やすよう市に協力を求めたいと考えています。

また、市役所に増築する災害庁舎に、あさがおテレビのサテライトスタジオを作ってはどうか。以前、地区の防災委員会で、テレビなどの放送を見ても、白山市の状況が分からない、我々の地区の情報がないという意見がありました。スタジオがあれば、市長やコミュニティセンター長が直接市民に向けて放送することができます。そういった身近な情報発信ができればいいと思います。

(出席者⑤)

御手洗地区では、1月1日の地震発生当時の地区住民の行動を把握するためにアンケートを実施しました。地震の警報が鳴った時、揺れた時、揺れが終わった時の行動を問うもので、450人中104件の回答が集まりました。集計結果をもとに、今年の訓練内容を危機管理課と相談しながら進めています。昨年は避難施設で防災用の担架やトイレの組み立て方を学びましたが、まずは震災時の避難を重点的に考えなければいけないと思っています。我々が住んでいるところは、地区の中でも一番海に近く、海岸から30m、海拔3mのところに住居があり、近くに川もあります。アンケートによると、早く遠くに逃げることを呼びかける放送があったため、地域の特性に関係なく、多くの人が車で逃げる選択をしました。そうすると、これまで地区で行ってきた津波避難訓練の成果がいかされません。新たな課題が浮き彫りとなり、今年の訓練をどうするか考えています。

また、津波発生時に避難場所として指定された場所が浸水想定エリアに含まれています。これでは逃げるに逃げられません。こうした事態への対策を考えていかななくてはならないと思っています。

## ◆海沿いの地区として、大津波警報が出た時の速やかな避難に課題

(出席者⑦)

1月1日の地震時にテレビで避難の呼びかけがあり、車で避難する人や防災訓練のとおり集合場所に歩いて向かう人がいました。そこから歩いて2kmの公民館に向かい、その後、大津波警報が発令されたため、さらに中学校に移動することとなりましたが、徒歩による移動は高齢者には厳しく、半数が途中で帰宅しました。車で逃げると大渋滞に巻き込まれた場所もあり、どちらがいいかは言えませんが、避難所である中学校まで、徒歩での行き方を工夫すればいいのではないかと思います。大津波警報が出た時には避難までのスピード感が大事です。中学校まで行く手立てを考えるのが一番重要だと思います。

また、地区内を流れる用水も、雨が降るとすぐに溢れ、以前に町内会長をしていた時に消防団に土嚢を積み上げてもらったこともあります。そういった際には、松任や美川でも氾濫していました。手取川が氾濫すれば、市役所も直撃して、街中も相当水浸しになると思います。

しかし、浸水しても床上までくるとはならないと思うので、水よりも地震が怖いのです。地震発生時にどうやって避難するか、防災訓練などを通じて考えていかななくてはならないと思います。

(市長)

御手洗地区では、北陸自動車道が緊急避難場所に指定されています。ハザードマップでは高さ8.9mであり、今回の地震による津波の想定は3m相当だったので、自動車道に逃げてもらえばいいのですが、やはり怖いだろうと思います。この津波の想定では、千代野などでも避難の必要はなかったかもしれませんが、避難を呼びかける放送が流れれば、逃げてしまうと思います。今までの訓練では、津波を想定していません。市内には、東西方向の太い道がないので、どうやって避難するか考えなければなりません。ある地区では、地区内の会社と協定を結び、建物の上に避難できるようにしています。地区内で一番高い建物は中学校なのですか。

(出席者⑦)

御手洗地区内にも協力してくれる会社があり、敷地内にある4階建ての屋上に逃げてくださいと言ってきています。しかし、海から30mしか離れておらず、津波が来ると言う時に海に向かって行くのは、心理的に難しく、また、外階段を4階まであがるのは、高齢者には厳しいものがあります。ほかに高い建物がないので、一目散に海から離れようとするようになります。

(出席者④)

先日、千代野地区の防災委員会でも話題になりました。津波の想定が最大3mであれば、内陸部である私たちの地区まで到達するとは思えない。どうして逃げるのか。海沿いの地区であれば、波が押し寄せてくるイメージは想像できますが、ハザードマップも主に海岸エリアが対象になっており、加賀沖の断層が震源地となった時にも最大3m想定。そういったことを知って、冷静に行動してもらいたいと思います。無理に避難すれば二次災害を引き起こす可能性があります。大雨の時も、床下浸水であれば2階に避難すればいい。避難しなくてもいいように備えをしておけば大丈夫です。千代野地区ではそのように推奨していきたいと考えています。

◆電柱に分かりやすい海拔表示と小中学校と近くのこども園、教育機関の合同訓練を

(出席者③)

1月の地震は、ハザードマップに載っていることが頭から飛んでしまうほどのものだったと思います。珠洲市では、電柱に取り付けられた看板に、標高何m、予想最大浸水高何mが表示されており、地震発生時に頭が真っ白になっても、家の外に出れば分かるように工夫されていました。白山市でも進められないでしょうか。

また、岩手県釜石市では、小中学生は地域の避難訓練には参加せず、学校で個別に訓練が行われているそうです。釜石市では、中学生が避難率先者としての役割を果たし、こども園等の子どもたちと一緒に逃げる訓練をしています。白山市でも、中学校・小学校と近くのこども園、教育機関が合同で訓練することで、大人も一緒に考える機会になると思います。ぜひ電柱の看板と避難訓練の工夫を考えてもらえたらと思います。

◆反省会やワークショップで浮かび上がった課題 防災士との連携方法を模索

(出席者⑧)

出城地区の自主防災会で、地震発生時の初動体制の反省会を開き、それを踏まえてワークショップを開催して、住民の避難に関する思いの聞き取りなども行いました。防災に関する知識を直接得る機会として、私たちの地区では、9月の防災の日に合わせて訓練を行っています。ここ数年は、防災士の協力をお願いしていますが、連携がうまくとれていません。ほかの地区では、防災士とどのように連携されているか伺いたい。

また、実際に現地に行って思ったこととして、物が倒れたりしている場所に入ることが多いが、ヘルメットが少なく感じました。防災用品として非常食やマスク、消毒液などの補助はされているが、緊急時に頭を守るためのヘルメットも補助対象に加えてはどうでしょうか。

(出席者①)

郷地区の防災委員会の役員約20人は、ほとんどが防災士です。また町会長も必ず防災士の資格を取ることになっているので、横の連携はしっかり取れています。

(出席者⑧)

町会長は1、2年で交代することが多く、自分の町内会でも、防災士の資格を取ることが3～4年は続いていましたが、その後は途絶えてしまいました。現在の町会長に提案しようと思います。

◆地元企業や学校と連携し、より良い避難行動を検討

(出席者⑩)

旭地区ではまだ防災の行事ができていない状況です。ハザードマップによれば、高速道路より北側は液状化や洪水、地震の際の建物倒壊率が30%になっていて、特に危険な地域となっています。その中で、地区内にある企業の体育館は、今回の地震で全く損傷がなく、グラウンドの液状化もみられません。数年前に、その企業と避難所の締結をしていたかと思いますが、その後どうなったのか。

(出席者③)

福祉避難所として締結していましたが、数年前に解約されています。私はすぐ隣の町内会なので、実際の災害の時には、協力を求めることもできると思います。

(出席者⑨)

避難所である学校に十分な備蓄品があるのか、先生方にも把握しておいてもらいたと思います。

(危機管理課長)

学校によって、備蓄品がある場所とない場所があります。ある場所はそこに何がいくつあるか貼ってあり、先生も見ればすぐわかるようになっています。

(出席者⑨)

地震の際に小学校に避難したけれど、体育館にしか入れてもらえませんでした。避難者から寒いとの連絡を受け、すぐにコミュニティセンターに移ってもらいました。学校によって、避難する場所のバランスが取れていないので、市内で統一してもらいたい。

◆要支援者のための個別避難計画 平時の見守りにも役立つので、ぜひ他の地区でも作成を

(出席者⑥)

昨年度、千代野地区で災害時における要支援者のための個別避難計画を作成しました。これは防災だけでなく、高齢者や障害者の見守りにも役立ちます。地域内で顔の見える関係をつくっていかねばいけないと思っています。他の地区でもこの計画を作成してもらいたいですし、市もバックアップしてもらえたらと思います。

(出席者⑩)

地区の防災訓練に毎年参加していますが、備蓄品にどのような品が揃っているのか、その使用方法や組み立て方などを、訓練の日に実際に使ってみたいと思います。

(出席者⑧)

非常食も賞味期限があると思うので、炊き出し用に提供してもらいたと思っています。

(危機管理課長)

危機管理課に相談いただければ、賞味期限が近付いているものをお渡ししますし、段ボールベットの組み立て方なども実際に行って説明させていただきます。備蓄は計画的に更新するので、地区の防災倉庫にあるからといって使わず、相談していただきたいです。

(市長)

地区によって状況が異なりますので、違いに合わせた対応が必要だと思います。今回の地震では、津波がかなりクローズアップされました。山ろく地域では、一昨年の豪雨被害による被害

が大きく、いまだ復旧できていないところもあります。大日川ダムも大きな被害を受けており、国土交通省と連携し、河川があふれないよう対策を講じなくてはなりません。支流の用水もあり、七ヶ用水の管理や田んぼダムなども考えていきたいと思えます。様々ご提言いただき、参考にさせていただきます。